

# 悔い改めについて

## 目次

- Step 1 主の道を用意すること
- Step 2 放蕩息子に学ぶ悔い改め
- Step 3 神に立ち返ること
- Step 4 悔い改めの方法 その1
- Step 5 悔い改めの方法 その2
- Step 6 前に向かって歩む

## Step1 主の道を用意すること

① マルコ1：14～15を読んでください。

(15節)  
何をして福音を信じなさいと言われましたか？

悔い改めて

② 使徒2：37～38を読んでください。

(38節)  
罪を赦していただくためには何をしなければなりませんか？

悔い改めて、  
イエス・キリストの名によってバプテスマを受ける

③ IIペテロ3：9を読んでください。

(9節)  
主がすべての人に望んでおられることは何ですか？

だれも滅びることなく  
すべての人が悔い改めに進むこと

④ ルカ3：3～6を読んでください。

(4節)

荒野で叫ぶ者の声は何と言っていますか？

主の道を用意せよ

主の通られる道をまっすぐにせよ

(5節)

まっすぐな道とは、どのような道ですか？

谷は埋められ

山や丘は低くなる

曲がったところはまっすぐに

険しい道は平らに



心を「まっすぐ」にするとはどういう意味だと思いますか？  
「谷」や「丘」は何を意味すると思いますか？  
あなたの心に「谷」や「丘」はありますか？

正しい答えはありません。自分の考えを書いてください。

例えば…

真っすぐにするとは、正直になること

谷は、すぐに落ち込むこと、自信がないこと

山は、高慢になること

他にも考えられると思います。

## 悔い改めが先なのです！

荒野で叫ぶ者の声とは、バプテスマのヨハネのことです。  
ヨハネは「罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマ」を宣べ伝えていました。  
「悔い改め」が「罪の赦しに導く」のです。

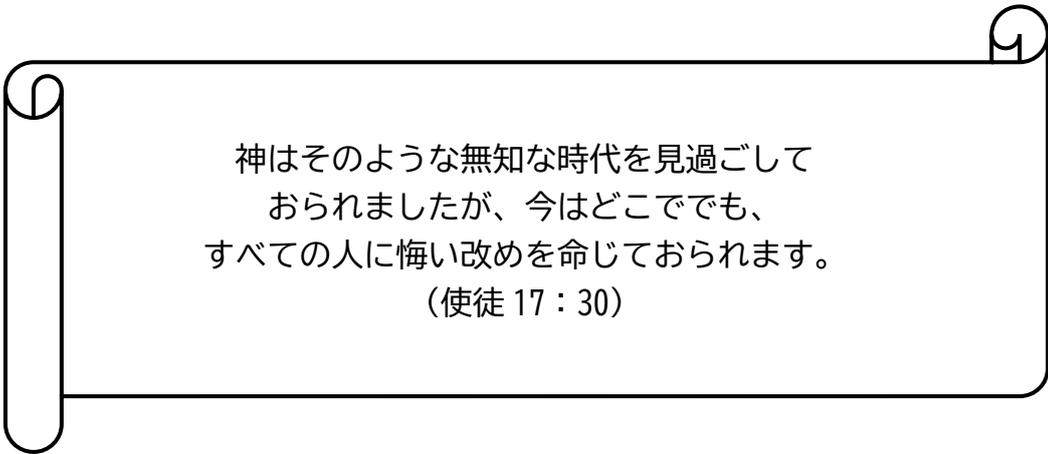
私たちは心の道を「まっすぐ」にしなければなりません。  
曲がった道やでこぼこ道は補整されなければなりません。

主は、すべての人が「悔い改め」に進むことを望んでおられます。

すべての人の罪が赦されるためです。

イエス様は「悔い改め」そして「福音を信じなさい」と言われました。  
「悔い改め」が先なのです。

私たちは、イエス様の福音を信じて「永遠のいのち」を得ます。  
しかし、「悔い改め」ないなら「信じる」ことはできません。



神はそのような無知な時代を見過ごして  
おられましたが、今はどこでも、  
すべての人に悔い改めを命じておられます。  
(使徒 17 : 30)

## Step 2 放蕩息子に学ぶ悔い改め

① ルカ15：11～24を読んでください。

(13節)

弟息子は財産をどうしましたか？

湯水のように使ってしまった

(16節)

何もかも使い果たした弟息子はどのような状態でしたか？

豚が食べているいなご豆で

腹を満たしたいと思うほど飢えていた

(18節)

我に返った弟息子は何を決心しましたか？

立って、父のところに行こう

そして、罪を犯したと告白しよう

(20節)  
彼(弟息子)は立ち上がってどこに向かいましたか？

自分の父のもとへ向かった

(20節)  
父親は彼(弟息子)を見つけてどうしましたか？

彼を見つけて、かわいそうに思い  
駆け寄って首を抱き、口づけをした



なぜ、弟息子は我に返ったのだと思いますか？  
あなたは我に返った瞬間がありますか？

正しい答えはありません。  
自分に重ねて考えてみてください。

もし、グループで学んでいるならば、みなで証をされるのも良い  
と思います。もちろん、強制ではありません。

一人で学ばれているなら、「我に返った瞬間」のことをもう一度、  
考える機会としてください。

大切なことは、「自分の以前の状態」をはっきり認識することです。  
そこには、もう二度と「戻りたくない」と思うことです。

## 放蕩息子にみる「悔い改め」の姿

### ① 我に返りました

自分の状態に気が付きました。  
飢えて、みじめで、孤独な自分を見ました。  
このままではダメだと悟りました。

### ② 考えを改めました

自分の生き方は間違っていると認めました。  
この生き方を変えたほうが良いと思いました。  
父のところに帰ったほうがよいと考えました。

### ③ 決断しました

生き方を変えようと決めました。  
この場所から去ろうと決めました。  
父のところへ帰ると決めました。

### ④ 実際に向かいました

立ち上がって父のところへ向かいました。



私たちは、弟息子の行動から学ぶことができます。  
悔い改めには4つのことが必要です。  
一つでもステップを飛ばしてはなりません。  
つまり、よく考えないで「悔い改め」の表明だけをしても  
意味がないということです。  
その表明は長続きしないでしょう。  
よく「考えて」そして「決断」してください。

天の父なる神様は、喜んであなたを迎えてくださいます。

## Step 3 神に立ち返ること

①エペソ2：1～3を読んでください。

(1節)

私たちは、どのような者であったと言われていましたか？

自分の背きと罪の中に死んでいた者

(2節)

かつては、何に従って歩んでいましたか？

この世の流れ

空中の権威を持つ支配者

不従順な子らの中に今も働いている霊

(3節)

私たちは、どのように生きていましたか？

何を受けるべき子らであったと言われていましたか？

自分の肉の欲のままに生きていた

御怒りを受けるべき子らであった

② 使徒26：14～20を教えてください。

(18節)

誰の支配から神に立ち返るのですか？

サタン

③ ルカ1：71を教えてください。

(71節)

この救いは何からのすくいですか？

私たちの敵からの救い

私たちを憎むすべての者の手からの救い

④ I ペテロ2：9を教えてください。

(9節)

神様は私たちを何の中に召してくださいましたか？

ご自分の驚くべき光の中

## 救われるとは立ち位置が変わること ～天国人になります～

「悔い改め」とは、向きを変えて神のもとへ行くことです。  
私たちは、どこから神のもとへ行くのでしょうか。  
私たちは、サタンの支配から神へ立ち返るのです。  
私たちは「悔い改めて」「福音を信じること」によって救われます。  
救われるとは、「敵」から救われるということです。  
「敵」とはサタンのことです。  
神は、私たちを「闇」から「ご自分の光の中」へと召してくださったのです。  
私たちの「立ち位置」は変わりました。  
覚えてください。  
「悔い改め」によって神のもとへ来たら、「この世」のものではありません。  
闇から光へ移されました。  
サタンの支配から神の統治へと移されました。  
「この世の民」から「神のものとされた民」とされたのです。  
向きを変えて走っていく先は、唯一の神のもとです。  
私たちは、「神のものとされた民」つまり「天国人」となったのです。

しかし、私たちの国籍は天にあります。  
そこから主イエス・キリストが救い主として  
来られるのを、私たちは待ち望んでいます。  
(ペリピ3:20)

## Step4 悔い改めの方法 その1

### ～ことばを用意する～

① Iヨハネ1：9を読んでください。

(9節)

どうすれば不義からきよめられますか？

自分の罪を告白するなら

② ローマ10：9～10を読んでください。

(9節)

どのようにすれば救われますか？

イエスを主と告白し

神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら



イエス様を主と告白するとは、どういう意味だと思いますか？  
あなたは、イエス様を主と告白しましたか？

最も真剣に考えるべき質問です。

「主」と告白するとは、「イエス様が主であることに同意する」ということです。

「主」であるとは、どういう意味でしょう？

どうぞ考えてください。

「主」には「従う」必要があります。

イエス様に「従う」とはどういう意味かよく考えてください。

③ ホセア14：1～3を読んでください。

(1節)

イスラエルは何につまずいたと言われていましたか？

自分の不義

(2節)

何を用意して立ち返れと言われてますか？

ことばを用意して

(2節～3節)

イスラエルは何と言う必要がありましたか？

すべての不義を赦してください

アッシリアは私たちを救えません

私たちは馬に乗りません

自分たちの手で造ったものに「私たちの神」と言いません



イスラエルは、「アッシリア」に頼っていました。  
つまり、その当時の「強い国」に頼りました。  
自分たちの力(馬)で生きようとしていました。  
また、自分たちが造った偶像を拠り所としていました、  
彼らは、唯一の神以外に「救い」はありませんと告白する  
必要がありました。

## 「ことば」を用意する

神様は、イスラエルに「ことば」を用意して立ち返れと言われました。私たちも神様に立ち返る際に「ことば」を用意しなければなりません。「ことば」を用意するとは「告白」することです。そして、「告白」するとは、神様の言われることに「同意」ということです。

### ① 自分の罪を告白する

- 自分の罪を認める
- 神様の御前に罪を言い表す
- 赦しを乞う

### ② イエスを主と告白する

- イエス様以外に救いはないと告白する
- 今まで自分がより頼んできたものには頼らないと宣言する。
- イエス様を自分の「主」とし従うことを宣言する

全能なる唯一の神様

今まで自分勝手な道を歩んできたことを認めます。

イエス様のほかに救いはないことを信じます。

私の罪をお赦してください。

私は、イエス様のほかに救いを求めません。

自分の力に頼って生きることをやめます。

全能の神様以外に頼るものはないことを宣言します。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

これは、簡易的な祈りです。

あなた自身の「ことば」を用意して御前に出てください。

罪の告白は具体的にすべきです。

罪の名前(マルコ7:21~23 を参考に)をあげて言い表してください。公の場でする必要はありません。

一人で神様の御前に心を注ぎだして祈ってください。

## Step5 悔い改めの方法 その2

### ～縁を切ること～

① ガラテヤ5：19～24を読んでください。

(19節～21節)

肉のわざとはどのようなものですか？

淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、  
ねたみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興など

(22節～23節)

御霊の実とはどのようなものですか？

愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制



私たちは「肉のわざ」と縁を切る必要があります。

パウロは、はっきりと言っています。

「このようなことをしている者たちは神の国を相続できません」

## ② 使徒19：17～20を読んでください

(19節)

信仰に入った人たちは何をしましたか？

自分たちがしていた行為を告白し明らかにした

(20節)

魔術を行っていた人たちは何をしましたか？

その書物を持ってきて焼き捨てた



「肉のわざ」の中で、あなた自身に深く関係のあることはありますか？  
何か処分すべきものがありますか？

じっくりと、自分に正直に考えてみてください。

皆の前で発表する必要はありません。

また処分すべきものを血眼になって探す必要はありません。

まずは、示された物の処分を考えましょう。(相談してください)

心の中にある「肉のわざ」を見つけたら、それもすべて処分します。

すべて「十字架につけた」と告白しましょう。それで完了です。

## 必要のないものは捨てます！

私たちは、悔い改めてイエス様に従うものとなります。  
 そうすると、私たちの生き方は変わります。  
 「肉のわざ」は、すべて十字架につけました。  
 私たちは「御霊の実」を結びながら生きていきます。

偶像に関わるもの、占いや魔術に関わるもの、不道德・不品行に関わるものは、処分しましょう。  
 それらは持つておく必要のないものです。  
 もし処分すべきものが手元にあるならば、牧師もしくは、信頼できる兄姉に相談してください。一緒に祈って処分してくれるでしょう。  
 見られるのが恥ずかしいものに関しては、この限りではありません。  
 こっそり処分しても差し支えないと思います。  
 暴くことが目的ではないからです。  
 関係を断ち切ることが目的なのです。

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。  
 人がわたしにとどまり、  
 わたしもその人にとどまっているなら、  
 その人は多くの実を結びます。  
 わたしを離れては、  
 あなたがたは何もすることができないのです。  
 ヨハネ15章5節

「関係を断ち切ること」や「偶像礼拝について」は、また別の学びを用意しています。  
 詳しいことは、そのシリーズで学びましょう。

## Step6 前に向かって歩む

①マタイ27：3～5を読んでください。

(3節)

ユダはイエス様が死刑に定められたことを知ってどうしましたか？

後悔し

銀貨30枚を返した

(20節)

ユダの告白に対し彼ら（祭司長たち）は何と言いましたか？

われわれの知ったことか

自分で始末することだ

②IIコリント7：8～10を読んでください。

(10節)

世の悲しみは何をもたらしますか？

死をもたらします

③ピリピ3：13～14を読んでください。

(13節)

パウロは、何を忘れて前のものに向かうと言っていますか？

うしろのものを忘れ

③詩篇103：8～12を読んでください。

(8節)

主は、どのような方ですか？

あわれみ深く、情け深い

怒るのに遅く、恵み豊かである

(12節)

主は、私たちの背きの罪をどのようにされますか？

東が西から遠く離れているように

背きの罪を私たちから遠く離される



主は、罪を蒸し返して「責める」ことは決してされません。  
私たちが「うしろのもの」は忘れましょう。  
自分で「始末」をつけることはできません。  
救いは「行い」ではないのです。

## うしろのものは忘れます！

悔い改めて神のもとに来たならば「うしろのもの」は忘れるのです。

「悔い改めた」なら前を向きます。  
方向を変えて進むのです。振り返ってはなりません。

たとえ、つまずいて転ぶことがあったとしても、前に向かって転びます。  
主が受け止めてくださいます。  
沈みそうになったら、手を伸ばすのです。必ず、イエス様がその手をつかんで  
引き上げてくださいます。

あなたを責め立ててくる言葉に怯えて後戻りしないでください。  
サタンは、悔い改めて従う決心をした人を責め立ててつぶそうとするのです。

聖霊様は、あなたが「悔い改めるべきこと」を示してくださいますが、決して  
責め立てることはされません。

覚えていてください。  
私たちは自分で自分の責任を取ることはできません。  
「自分で始末せよ」という声はサタンのものです。  
誰も「行い」によっては救われないからです。

もうダメだと思うことがあったとしても、罪悪感で押しつぶされそうになった  
としても、それでも決して「後戻り」しないでください。

思い出してください。  
「罪を犯さない」という決心をしたのではありません。  
「神様のもとに行って、もう離れない」という決心をしたのです。

どんなことがあっても、絶対にイエス様から離れないでください。  
あなたから離れない限り、イエス様は決してあなたを見捨てられません。

私たちは一緒に進みましょう。  
うしろのものは忘れて、前に向かって！  
天の御国を目指して進みましょう。